

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東淀川区
学 校 名	菅原小学校
学校長名	塩月 学

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・菅原小学校では、第6学年 108名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○国語科について、平均正答率が大阪市平均正答率を4ポイント、全国平均正答率を5.8ポイント下回った。算数科については、平均正答率が大阪市・全国平均正答率から5ポイント下回った。理科についても、大阪市平均正答率を4ポイント、全国平均正答率を6.1ポイント下回った。

○平均無回答率についても、大阪市、全国平均よりも高くなっている。【無回答児童が多い。】

○どの教科においても、ここ数年と同様に、正答率が全国平均や大阪市平均と比べると低くなっており、学力向上は重要課題と言える。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕すべての領域において、大阪市平均を下回った。特に言語文化に関する事項(−11.6ポイント)と書くこと(−7.3ポイント)に関しては大きく下回っている。

〔算数〕すべての領域において、大阪市平均を下回った。特に図形(−9.7ポイント)に関しては大きく下回った。

〔理科〕特別に苦手としている領域はないが、すべての領域において、大阪市平均を下回った。

どの教科においても、大阪市平均を下回る結果にはなっているが、昨年度実施の学力経年調査においては、大阪市や全国平均を上回る結果が出ている教科・領域もあったことから、長期的な記憶やスキルの定着に結びついていない可能性が考えられる。

家庭学習の定着、スクールアドバイザーの方の助言を活かした授業づくり等、学習意欲の向上とともに、基礎・基本の定着を図る必要があると考える。

質問調査より

質問紙における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合が、大阪市・全国平均よりも5.4ポイント高かった。自己肯定感を高めるような取り組みや関わりをしてきた成果があらわれたと言える。

一方、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対しては、肯定的な回答をした児童が大阪市・全国平均よりも10ポイント以上低かった。今後キャリア教育や総合的な学習、学級活動を通して、児童自身の視野を広げ、各々の強みや長所に気づけることができるような取り組みをしていく必要があると考える。

## 今後の取組(アクションプラン)

校内研究の主題でもある「学んで楽しい ～主体的な学習者の創造～」を意識した授業改善や授業づくりを行うことで、児童自身が学びに対して主体的に向き合えるよう、学習意欲を向上させていく。また、キャリア教育を通じて、将来に渡るビジョンが持てるよう、それが自身への成長や頑張りに繋がるような取り組みを実施していく。

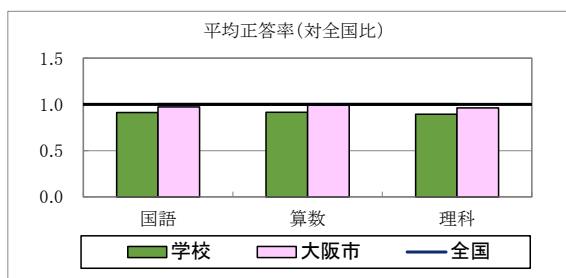
学習に集中しきれない要因の一つとして、スマホやゲームの長時間利用などによる生活習慣の乱れ等が考えられる。保健の学習や生活習慣を振り返る取り組みなどを通じて、児童への啓発を図るとともに、家庭とも情報共有を図り、連携することで改善を図る。

また、特別支援学級在籍の有無に関わらず、学習面に関して支援を必要とする児童が一定数に在籍するため、個々に応じた最適な支援方法を探るとともに、引き続き学年団として、丁寧なフォロー体制を継続していく。

## 【 全体の概要 】

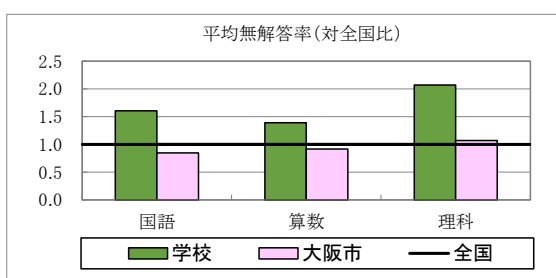
### 平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	61	53	51
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



### 平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	5.3	5.0	5.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



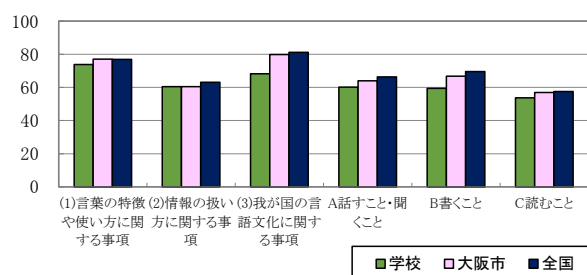
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	73.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	60.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	68.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	59.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	53.7	56.9	57.5

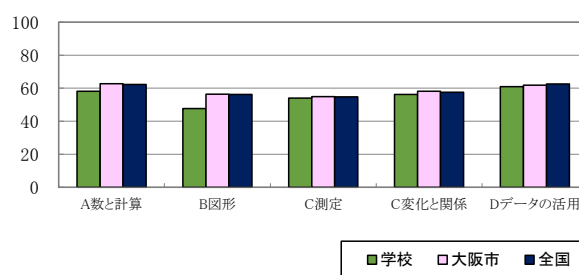
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	58.2	62.7	62.3
B 図形	4	47.7	56.4	56.2
C 測定	2	54.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	56.2	58.2	57.5
D データの活用	5	61.0	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

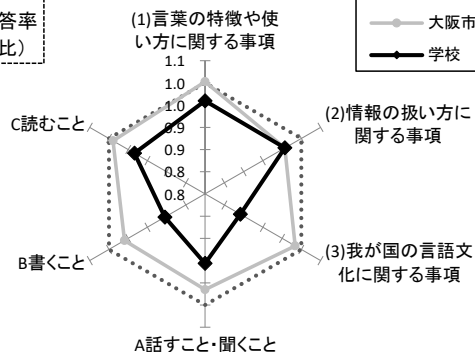


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



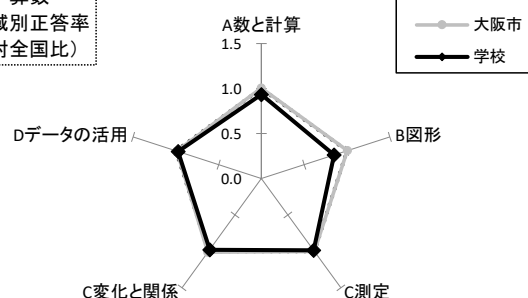
### 国語

内容別正答率  
(対全国比)



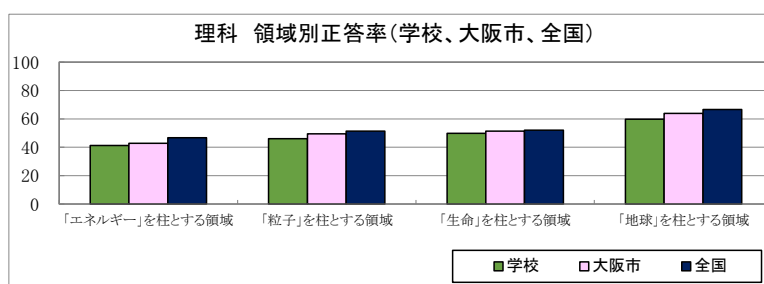
### 算数

領域別正答率  
(対全国比)

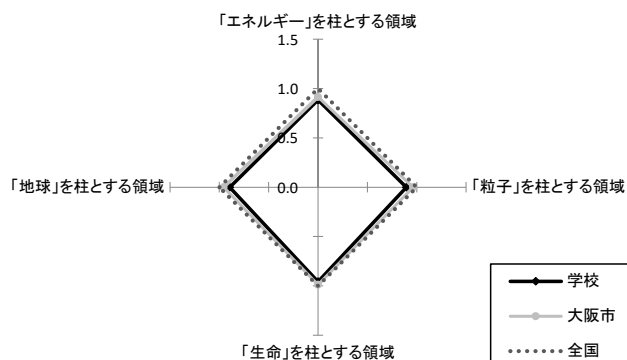


## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	41.3	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	46.0	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	49.8	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	59.7	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



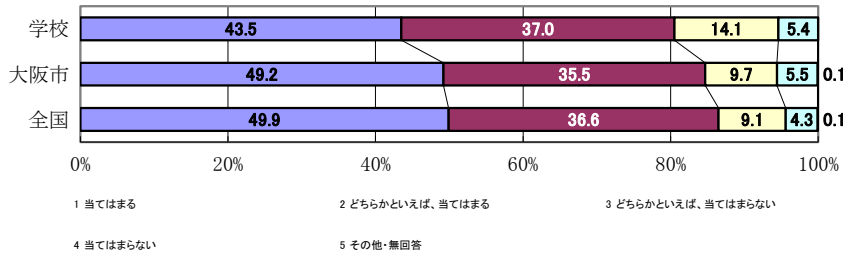
## 児童質問より

質問番号

質問事項

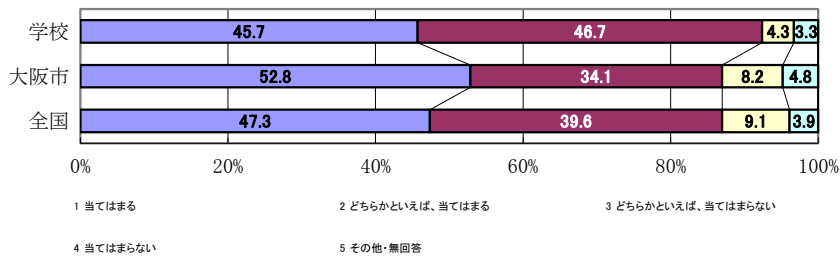
12

学校に行くのは楽しいと思えますか



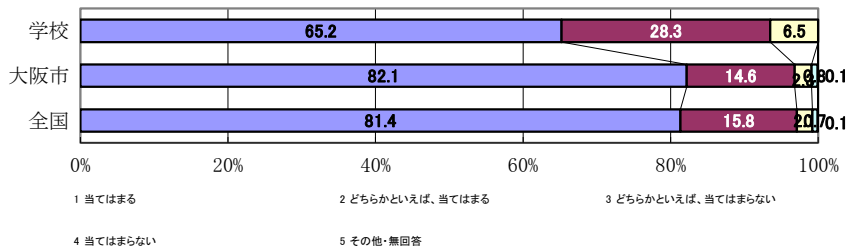
5

自分には、よいところがあると思えますか



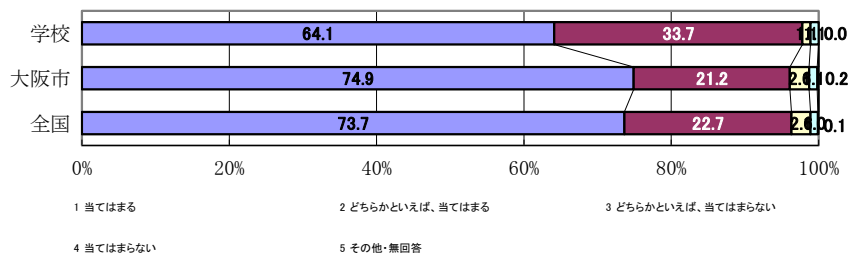
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



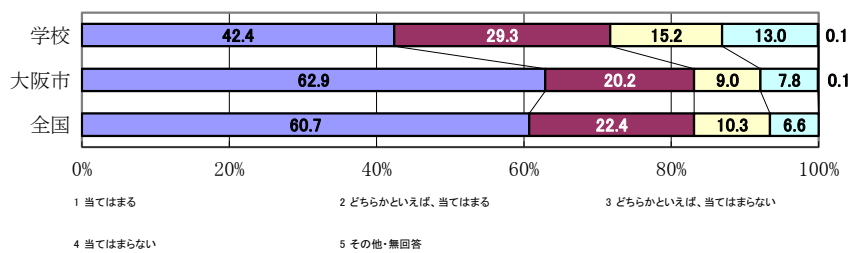
11

人の役に立つ人間になりたいと思えますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



## 学校質問より

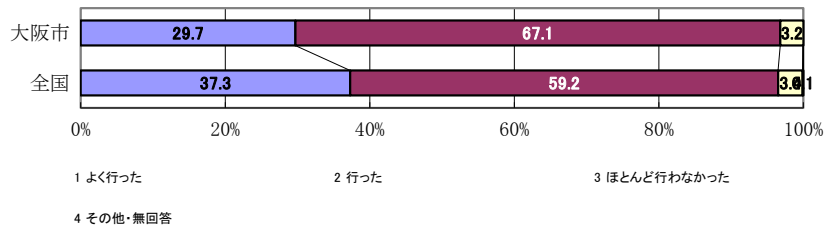
質問番号

質問事項

83

令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

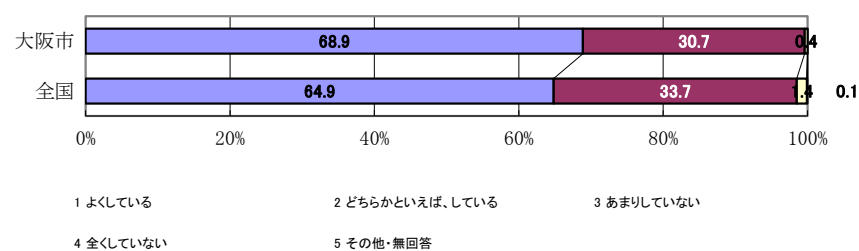
学校 「行った」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

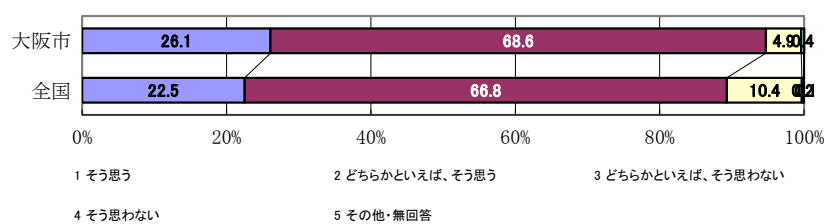
学校 「どちらかといえば、している」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

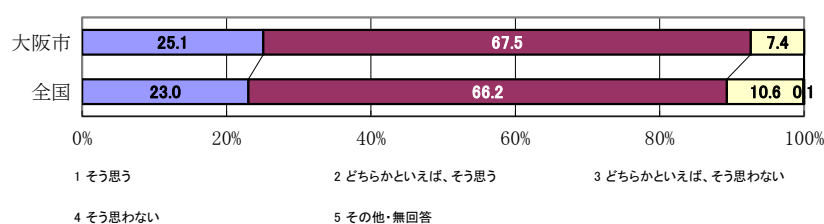
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



67\_5

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途での程度活用していますか。(5) 児童の心身の状況の把握

学校 「ほぼ毎日」を選択

